

一般質問

アスベスト対策を急げ



小杉邦男 議員

質問

市が管理する施設でアスベスト使用の現状の把握と今後の市の対策を問う。

市長

市の関係部署と国・県の関係機関とでアスベスト対策連絡会議を開催し、施設での吹き付けアスベスト等の使用の現状調査、今後の対策を協議している。

総務課長

8月に市の管理施設800棟について現地調査を行った。建築年度や設計図書等から42施設が疑いのある施設に該当した。多くは機械室、発電室等であるが、危険性の高い4箇所はシャッターでの封じ込め、ビニールで覆う等密閉をした。今後は緊急

性の高い施設から検査を実践したい。

質問

一般住宅を含むアスベスト使用施設に対して、どのような対処を考えているか。

建設課長

民間施設は県で対処し、佐渡市内では佐渡地域振興局がアスベスト使用の可能性のある建築物の把握を行っている。一般住宅についての市民相談は、市民相談室を窓口にして受けている。

質問

アスベストによる罹患市民への健康相談等の対策はどのように考えているか。

環境保健課長

アスベストは安価な建材として昭和30年ごろから使用され、その繊維を

吸い込むと肺がん、中皮腫の健康障害への危険性が高い。アスベスト作業に従事した経験のある人には、労働基準監督署では医療機関での受診を勧めている。保健所や佐渡市の環境保健課で健康相談を受け付けている。

市の責任で待機者の解消を

質問

介護保険施設への入所希望者が切実な思いで待機している。保険者である市は、入所待機者の解消に責任を負っている。今後の具体的な解消策を問う。

市長

現在の入所待機者は

500人弱である。10月から赤泊の特養施設（スマイル赤泊）が入所50床、ショートステイ20床、計70床の規模で開設する。待機者解消策を担当課と協議している。新年度予算で一部提案できればと考えている。

社会福祉課長

施設作りの方策としての福祉特区の提案は、確実な具体性のあるものでないと国は認めないので難しい。市としては地域に合った施設作りができないか努力している。

指定管理者制度への一体的認識が欠けていないか

質問

指定管理者制度の施行で市の対応に一体的な認識が欠けているのではないかと批判があるが、制度に対する市の考えを問う。

市長

初めて導入する制度でもあり、事務を進める上で担当部局間の連携が十分であ

ったかといわれると、今後見直さなければならぬ点は多かったかと思っている。指定管理の施設は今後も出てくるので、今回出したケースも含め今後検討したい。



10月にオープンしたスマイル赤泊